

令和８年７月２８日

滑川市長 水野 達夫 様

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会・本線部会
会 長 新田 八朗

「地域交通の全体最適化に向けた検討にあたっての要望書」に対する回答
について

令和８年６月５日付け「地域交通の全体最適化に向けた検討にあたっての要望書」に対する回答について、別紙のとおり送付します。

要望書に対する回答

ご要望項目を大きく整理し、回答させていただきます。

地域別の社会便益の試算について

便益に応じて負担するという考え方は、妥当なものであると考えますが、市民組織の皆さんが計算された便益は、かなり広範にわたっています。

例えば、自動車の交通渋滞が緩和されるという便益で言えば、富山市内での交通渋滞緩和の便益は、富山県民全体や富山県以外の人たちにも、及んでいるということになります。そういう意味では、この方法で便益を地域別に計測することは、技術的に難しいと考えています。

多くの事例では、地域別の負担割合は、駅の数や利用者数などの客観的な指標で決められています。そのような方法の方が、多くの人の理解が得やすいためであると考えられます。

人口減少や自動運転などの将来予測を踏まえた社会便益の算出

将来予測を踏まえた便益の計測は不確実性を伴うものになります。自動運転についても、10年後、15年後にどの程度普及しているかは、自動運転の専門家であっても、予測は容易ではないと思います。

このような将来予測に基づいて計測された便益は、かなり不確実なものにならないを得ないと思います。仮定を置いて計算することは可能ですが、意思決定につなげていけるほどの精度で予測することは難しいと考えています。

「鉄道」と「道路」の組合せ等によるベストミックスの検討

ベストミックスを求めていくことは、交通政策全体としては大変重要ですが、便益と費用を計算する手法は、あるプロジェクトについて、それを実施する価値があるかどうかということを検討するためのものであり、最適な組合せは何かということを探す手法ではありません。

このため、そのようなことを目指すのであれば、いくつかの代替案を挙げて、交通流動の変化なども考えたうえで、最適な組合せを見出すような、別の分析が必要になります。この手法は、ベストミックスを導き出すことを目的としたものではないということをご理解いただければと思います。